

都市づくりNPOさいたまは…

市民のまちづくりへの参加を支援し

まちづくりの新たな価値を提案し

具体的まちづくり活動を実践して

市民がまちづくりの中心にある社会を目指します。

October.2013

vol.01



特集
P.2

さいたま市 協働のまちづくりを考える

[今号の表紙]

埼京線・南与野駅の近く、新幹線の高架に沿うように高沼用水西縁が流れる。この昔のままの素掘りの用水路の価値に気づいた市民が仲間を募り、さまざまな活動を行っている。トンボ池づくり、「河童の森」の植樹につづき、土地区画整理事業によって取り残される用水部分での「河童ぶち公園」の整備に取り組んでいる。

つくたまプロジェクトレポート

P.4

河童ぶち公園計画づくりの支援

つくたまな人々

P.6

窪田 陽一 さん [NPO法人都市づくりNPOさいたま理事長]

まちづくりNPO紹介

P.7

こうぬま・水と緑を楽しむ会

インフォメーション

P.8

特集

さいたま市 協働のまちづくりを考える

2001年のさいたま市誕生から12年経った。

つくたまもほぼ同時に発足、さいたま市を中心に市民主体のまちづくりに取り組んできた。

情報紙の創刊に当たり、さいたま市における“協働のまちづくり”がどこまで進んできたのか、これから何を目指していくべきなのかを考えてみたい。

市民活動サポートセンターは、NPOの指定管理のもと、多くの市民団体が活動拠点として活用している。

市民活動の広がり

1995年の阪神淡路大震災を経て、1998年にNPO法(特定非営利活動促進法)が制定された。その前後から、さいたま市内(当時は旧4市)においても、多くの市民活動団体が活動を開始した。

特定非営利活動法人に限れば、現在さいたま市内に事務所のある団体は407。うち、2005年4月以降に認証されたものが279団体で、70%近くがここ8年のうちに活動を開始している。

合併によってひとつの市になり、旧4市で活動していた団体間の連携ができ、活動の幅が広がってより活発な活動が展開された。これらの活動にとって、市民活動サポートセンターの空間と活動が大きな支援となっており、任意団体も含めて約1500団体が登録している。

相川市政での取り組み

さいたま市誕生後、2001年5月から2008年までの8年は、相川宗一市長が市政を担った。社会の動向を受け、市政の柱のひとつとして、「市民との協働」を掲げた。

●さいたま市の総合振興計画「さいたま希望(ゆめ)のまちプラン」2004年策定:協働によって、地方分権をリードする市民本位の自立した都市づくりを進めます。(都市づくりの基本理念)

●さいたま市都市計画マスタープラン「さいたま2005

「まちプラン」2005年策定:市民と企業、行政が互いに役割と責任を自覚して、協働によりまちづくりを進めていくこと。(まちづくりの基本的視点)

2007年には「市民活動及び協働推進条例」を制定、これに基づいて、市民活動サポートセンターが設置された。市民活動サポートセンターは、NPOの指定管理のもと、多くの市民団体の活動拠点となっている。

市民活動及び協働推進条例の構成

(2007年4月1日施行)

- 【目的】市民活動及び協働の推進により、活力ある地域社会を実現すること
- 【基本原則】公益性、自主性、自立性及び多様性の確保、等
- 【市の責務】推進のための施策を総合的、計画的に実施
- 【市民の役割】地域への関心、活動への参加と協力に努める
- 【市民活動団体の役割】活動が広く理解されるよう努める、等
- 【基本的施策】活動の拠点となる場の提供等、推進のために市が実施すべき7つの施策を掲げる
- 【推進委員会の設置】公募市民を含めた組織による調査審議

しかし、市民の中での活動が活発化してきた一方で、行政職員は、市民と一緒に活動することについて極めて消極的であり、協働のまちづくりが進んでいるという実感はまったくなかった。

合併して政令指定都市になっても、市民にとっては行政が遠くなっただけであり、逆に大都市化により都市ブランドが向上したためか、無秩序な高層マンションの建設が進み、もとから住んでいた市民の住環境は悪化の一途をたどっている。

相川市政の終盤は、そんな閉塞感がただよっていた。

清水市長の登場

2009年市長選で清水勇人氏が当選、第三代市長に就任。さいたま市の現状に危機感を表明、市民を向いた市政を標榜し、市民側からも大きな期待を集めた。

2009年市長選挙 清水はやとマニフェスト 「さいたま市」だってCHANGE

- 情報公開日本一の実現
- 意思決定過程を市民に見えるようにする
- さいたま市の憲法「自治基本条例」を市民参画で制定（その他、5条例を積極的に提案）
- 市民活動を推進するための「マッチングファンド制度」を創設
- 市民との対話（タウンミーティング40回）
- 良好な住環境を守る「高度地区」による高さ制限を導入
- 区民会議・コミュニティ会議の活性化
- 区長マニフェストを全区長が策定
(市民自治、まちづくりに関する項目の抜粋)

主として市民との協働に関わる部分について、その一期目の成果を振り返ってみよう。

●しあわせ倍増プランの策定：清水市長独自の市政運営計画として、「しあわせ倍増プラン2009」を策定。8分

野にわたる74項目、139事業を掲げ、市民の参加による「市民評価委員会」で実績を評価して報告した。約90%の達成となっているが、事業の重要度はさまざまだ。

●マッチングファンド制度の創設：相川市長時代の「市民提案型協働モデル事業」に代えて創設。2010年からの3年間で14事業が実施されたが、行政側の姿勢はまだ消極的で、2013年度は2事業にとどまっている。

●高度地区の指定：住居系用途地域部分（1種2種低層住居専用地域等を除く）について、15m・20mの高さ制限を導入（2013年8月から施行）。住環境保全の取り組みに一步踏み出した。

●条例の制定：「ノーマライゼーション条例」など、公約したいいくつかの条例の制定。ただし、「自治基本条例」は、活発な市民参加による検討が行われたにもかかわらず、棚上げされたままになっている。

協働のまちづくりはどこまで進んでいるのか

清水市政の中で、協働のまちづくりがどこまで進んでいるのか考えてみよう。ここでは、われわれのNPOメンバーが何らかの形で関わった計画・事業について、意思決定の主体性が行政と市民の間でどのように担われていたかに着目して、市民の目線で評価している。

重要な都市政策の決定は、市民から遠いところで行われている場合が多い。また、行政職員に市民と協働しようという意欲は相変わらず低く、実質的な協働の実現にはまだ遠いと言わざるをえない。一方、市民側の無関心、広い視野の欠如もあり、多様な人材が潜伏している。

さいたま市における参加・協働のまちづくり 評価表

参加・協働の形態	I	II	III	IV	V	VI
都市計画マスタープランの策定		●			学識経験者を中心の委員会で審議、市民への説明、パブコメも形式的	
高度地区の指定(都市計画決定)			●		積極的な説明が行われ、市民から多くの意見も出されたが、結果的に修正はほとんど行われなかった	
開発許可制度の運用 マンション開発の指導 等	●				市民に積極的に説明しようとしない、開発業者任せ	
地区計画の策定			●			行政主導によるものがほとんど。住民が発意して主体的に検討、提案した例は極めて少ない
区民会議の活動	区によってさまざまだが、区のまちづくり課題に本格的に関わっている場合は少ない			●		
マッチングファンド制度の運用			●		行政の計画に参加を求めるものから、市民側が発意して行政と協働するものまで多様	
自治基本条例検討委員会		市民中心の委員会で検討、市民との意見交換にも努めたが、棚上げされたまま				
福祉のまちづくり推進協議会の運営		委員の主体的な協議に基づき、市民を巻き込んだ事業を進めている		●		

※参加・協働の形態は、意思決定の主体性がどこにあるかに注目して設定。※形態のIV・V・VIは、必ずしも優劣の順序を示すものではなく、場合により適切な参加・協働形態があると考える。

清水市長の二期目に期待する

このように見えてくると、相川市政から清水市政へのチェンジによって市民が得たものは、いまだ「変化の扉を開いた」段階だ。市民との協働に関する行政内的一般的な認識は、行政の仕事を市民に手伝わせようとする、行革の思惑が先立っているように感じられる。

本格的な人口減少社会を迎えるまちづくり、都市の運営には新しい発想や手法が求められている。とりわけ、市民が地域に関心を持ち、自らまちの課題解決に行動を起こすことが、身近な暮らしの安心、安全や豊かさに結びついていく。清水市政の二期目4年間では、市民と行政が対等なパートナーシップのもとに力を合わせる、より本質的な「協働」にステップアップさせたい。

●市民・区民と行政との協働の場と仕組みの整備(協働のためのラウンドテーブル、支援機関やそれを裏づける条例整備など)

●区役所の「まちづくり」と「地域コーディネート」機能の強化

他方、わたしたち市民の側も要望陳情するだけでなく、行政職員とともに協働の成功体験を積み重ね、市民協働に理解ある市議会議員を育てていかなければならぬ。

2013年9月29日。清水市長の「さいたまNPOセンター」への『現場訪問』に会員・理事の中津原と三浦が同席し、市民と行政の協働にかかる現状認識と政策課題について意見交換した。

その中で清水市長は、【①コミュニティ再生に向けて、自治会とNPO等の“団体ミックス”による課題解決を ②行革は“切る改革”だけでなく“産む改革”も重視し、市民、NPO、企業との協働に可能性を見る ③府内にも部局の壁があるが、府内の連携コーディネートを強化して市民、企業等との協働と成功を積み重ねる ④新しい発想や文化性を備えた職員の採用や戦略的研修等で、府内の意識改革を進めたい】という趣旨の発言をし、NPOと行政の間での人材交流などにも関心を寄せた。

つくたまは、さいたま市を、全国でも市民と行政の協働が活発な、市民主体のまちづくり先進地にしたいと考えている。つくたま情報紙では、今後も様々な観点から、このテーマを考えて行きたい。

【文責：中津原努、三浦匡史】



河童ぶち公園計画づくりの支援

さいたま市マッチングファンド事業河童ぶち公園計画づくり支援の取り組み

「さいたま市市民活動及び協働の推進助成金(愛称：さいたまマッチングファンド助成金)」の2012年度事業として採択された『河童ぶち公園』(仮称)の市民参加と協働による水辺緑地計画に、つくたまメンバーとして企画運営並びに提案とりまとめを連携支援したことについて、報告する。

マッチングファンドとは

さいたま市のマッチングファンドは、市民団体のアイデアと労力に、行政が資金(その資金源には広く寄付を募集する)と政策的な支援を合わせ(マッチング)て地域課題の解決にあたるしくみで、基金と助成制度とで構成されている。つまりは、市民と行政との協働の取り組みのために市が助成する画期的な(と思われた)しくみである。

これに「こうぬま・水と緑を楽しむ会」が、南与野駅西口土地区画整理事業の一角落取り残された高沼用水西線の公園化を進めるために、土地区画整理事業者である「与野まちづくり事務所」との協働を申請した。

マッチングファンド事業へのチャレンジ

マッチングファンドは、一般的には市民団体が行うイベントに対する助成が多く、今回の「こうぬま・水と緑を楽しむ会」が申請した社会基盤整備の計画づくりは、とても稀なケースだ。私たちは、市民参加で作った公園計画が、行政(与野まちづくり事務所)の手により実行されることに、とても期待し、これぞ真の市民と行政の協働であると胸を膨らませた。

しかし、その実施は困難を極めた。当初は、行政職員の協働への理解が低く、「こうぬま・水と緑を楽しむ会」の鈴木清史代表をはじめ市民側の負担は大変大きなものであった。

ところが、段階を経るうちに、行政職員も市民との協働の意義を理解し、積極的な姿勢が見られるようになった。このことこそが、マッチングファンド事業に取り組むことの本質的な意義であったとも思われる。また、この難しいマッチングファンド事業が成功裏に終わったのは、市民参加の

プロであるつくたまメンバーが企画運営として連携支援できたことも大きな要素だと思う。市民側にこのようなプロがいることを、さいたま市行政の特に社会基盤整備分野で、もっとうまく活用することを考えてほしいものである。

ワークショップの運営と計画づくり

では、実際にどのようにワークショップが運営され、「河童ぶち公園（仮称）計画」が作られたか以下に示す。

つくたまメンバーは、プログラム作成の企画提案から、勉強会での事例紹介、各ワークショップのファシリテート、市民参加の結果をまとめた計画づくりを担当した。プログラムの構成は右の表に示した通りである。

市民に参加を呼びかけ、地元自治会やこうぬま・水と緑を楽しむ会会員が多数参加した。各回20～40名の参加があり、最初はこのようなワークショップに慣れていない人も、勉強会や現地見学から入ることにより、無理なく現況把握の上でのアイデア出しができたのではないかと思われる。

ファシリテーターを担当した感想としては、参加した市民のそれぞれの持ち味を生かすことができ、それが一つの方向にまとまっていくところを目の当たりにできたのは、とてもうれしいことで、ワークショップの醍醐味を味わうことができた。

今後の展開と課題

市民が社会基盤整備の計画づくりに携わることはとても重要で、自分たちで作った計画に基づいて造られた公園

ワークショップのプログラム		
月日(2012年度)	内 容	備 考
7/29(日)	プレイベント(灯籠流し)	
8/26(日)	勉強会①高沼用水について レクチャー&現地見学	幅広い市民の参加があった
9/17(月・祝)	勉強会②市民が管理運営する 公園緑地の事例研究	具体的取組への下地 作りができた
10/21(日)	ワークショップ① 河童ぶちの利用メニュー発案	水辺緑地への思いを 活発に議論
11/25(日)	ワークショップ② 利用活動内容と必要な管理について	楽しむだけでなく管理 についても議論
12/15(土)	ワークショップ③ 公園のデザイン(1)	施設や空間づくりに様 々なアイディアとスケッ チが出される
1/26(土)	ワークショップ④ 公園のデザイン(2)	グループごとに公園デ ザインを完成
2～3月	成果とりまとめ	各グループのデザイン を1枚にとりまとめ

を市民の手で守り育てる意識が醸成されることが期待できる。成熟社会への第一歩と言うことができる。

今後は基本計画、設計、施工と進められるわけだが、その各段階で市民が参加できるものとならなければならない。つくたまとして、この事業に関わり続けることが必要だと感じている。

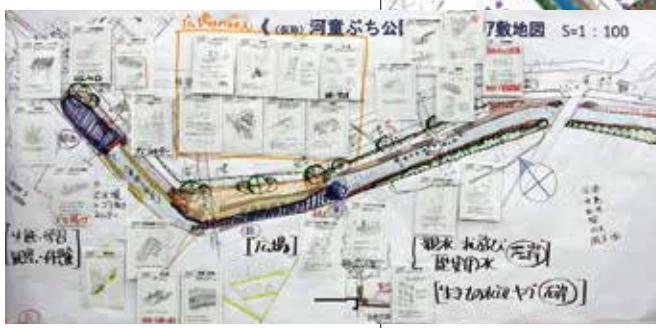
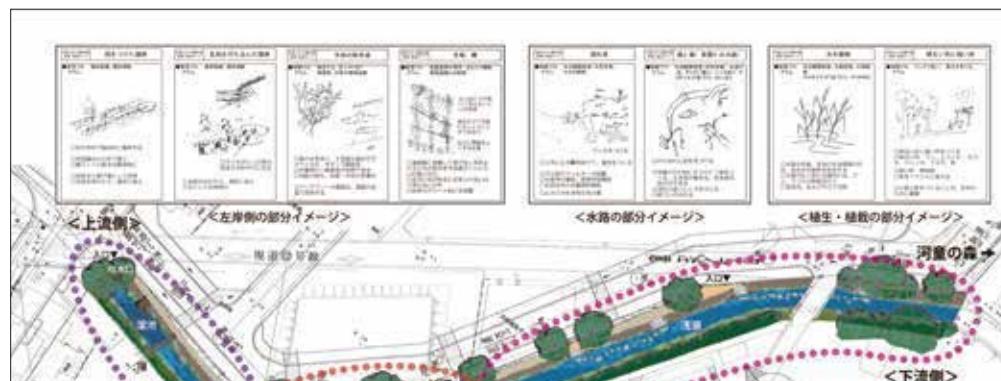
最後に、このプロジェクトに参加したメンバーを列記し、感謝の意を表したい。

(敬称略・五十音順) 安部邦昭、鈴木清史、瀬尾弘美、中津原努、三浦匡史、若林祥文

【レポート：瀬尾弘美】



市民参加のワークショップの様子



ワークショップの結果をまとめた公園利活用と運営を考慮したデザイン提案



つくたま人々

窪田 陽一さん [NPO法人都市づくりNPOさいたま理事長]

1

プロフィール／1951年生まれ。1980年東京大学大学院工学系研究科修了。工学博士。埼玉大学大学院理工学研究科教授。埼玉県環境審議会会長。与野本町駅西口広場、レインボープリッジ、東京ゲートブリッジのデザインを監修。雷電廿六木橋で2010年土木学会デザイン賞最優秀賞受賞。

日本の職業人に必要な資質とは

現代は、ひとりの人間が複数の場で活動するケースが増えつつある。大学でも助成金等へ応募するに際して、エフォート(effort: 労力)の配分が重視されている。教育と研究、社会貢献等に、限られた時間を適切に配分できることを示し、成果が得られるかを審査される。NPOでの活動も同じ視点から考えることができる。

これまで日本では人海戦術的に一人一人が細分化された役割を分担してそれぞれエキスパートになることを目指してきたが、成熟社会と言われる欧米の人たちを見ると、複数の分野でエキスパートであることが求められている。

若い世代への期待とITへの関心

40代の頃にデンマークで、ある技術者の話を聞き、これから的人生のあり方を考えるヒントを得た。その人は55歳で引退してベトナムに移住し、年金を受けながら適度な仕事をすると言っていた。引退は活力がある若い世代に出番が回ることを

期待するからだという。

facebook (FB) やlineの使い方に興味があり、自分も良く使っている。大学の専攻などの情報発信をFBで時折しているが、HPと比べて反応が良い。友達の友達の輪をつくっていくつながりを基本としているので、興味のある事項や関係者の検索が極めて容易になっている。ウェブサイト側で情報を選択して通知してくれる、言わばお節介をpush noticeというが、最近のITサービスの発展は著しい。

アーカイブスを構築するむずかしさ

情報を集めるのは比較的容易だが、情報を整理し、持続的に更新していくことは日本ではなかなか難しい。地価の安い所に原資料の保管施設を置き、検索方法もITを使い、人件費ができるだけ安くすることがポイントだ。

さいたま市が合併する時に、都市計画関係の資料が散逸もしくは消滅することをおそれ、アーカイブスの構築を考えたが、様々な障害があり結果として実現できなかった。

21世紀の景観を追求したデザインにかかわったプロジェクト

恩師の中村良夫東京工業大学名誉教授と一緒にレインボープリッジ、羽田スカイアーチ、東京ゲートブリッジなどのデザイン・プロジェクトの仕事をした。特に東京ゲートブリッジは、21世紀のトラス橋の姿を追求したもので、20年前に基本形態のアイデアを提案し、完成まで景観設計を監修した。ちなみに「恐竜橋」という愛称で知られている。

彩甲斐街道と呼ばれる、埼玉県から山梨県に至る道路で滝沢ダムの前面に位置するループ橋の雷電廿六木橋をデザインした時は、施工に際してコンクリートの型枠に透明なアクリル板を使い、コンクリートの橋脚の側面に施したパターンの上を向いた面に気泡が生じるか否かをチェックできるようにした。

また、国道17号北浦和駅南～市役所前の歩道、小川町の埼玉伝統工芸会館にも関与した。NPO活動でも環境デザインができればと思っている。

【レポート：若林祥文】



首都高速道路下の見沼ビオトープを埼玉大学環境共生学科の学生諸君と見学



着想から実現まで約20年間デザインの監修に携わった東京ゲートブリッジの夜景

まちづくりNPO紹介 ①



こうぬま・ 水と緑を楽しむ会

【設立】1997年 【法人形態】任意団体

【代表】鈴木清史さん

【会員数】一般40名／法人3団体

【住所】さいたま市桜区西堀2-10-28

【TEL】048-863-2314

【E-mail】arc-kiyo@theia.ocn.ne.jp

【BLOG】http://kounuma.sblo.jp

会の設立と活動の趣旨

さいたま市中央区、桜区にまたがる「高沼用水東西縁周辺地域」の、特に南与野駅近くの高沼用水西縁周辺をフィールドとして、三百年余の歴史ある用水と用水に並行するJR埼京線環境空間を活かした、市民参加と協働によるまちづくりを進めている。

①身近な自然を守り、作り、楽しもう

- 護岸、丸太橋、ポンプデッキなど高沼用水西縁の保全整備
- JR埼京線環境空間を活かした河童の森とトンボ池づくり、休耕地を借りた畑づくり
- 地域の子どもたちと一緒に身近な自然や水に親しむイベント、定例の保全・維持作業 など

②活動の輪を広げて成果を上げよう

- 自治会との協力や企業からの支援の獲得
- 行政への働きかけとパートナーシップづくり
- 総合的学習の時間の受け入れや環境教育実習との連携、生涯学習講座 など

③環境汚染をチェック、阻止しよう

- 環境調査(生物、水質等)
- 清掃活動
- 勉強会、講演会、高沼用水ウォーキング など

これまでの実績や主な成果

このような活動は、年々の成果の積み重ねによって、着実に地域社会やさいたま市行政に浸透しつつあると自負している。

- 2002年5月：第1回さいたま市景観賞「景観協力賞」受賞
- 2004年度：長年の活動と要望が認められ、さいたま市・JRの協力を得てJR環境空間で「河童の森」づくりスタート
- 2006年度：埼玉県トラック協会の助成金を得て河童の森拡大
- 2012年度：さいたま市マッチングファンド事業で「(仮称)河童ぶち公園計画づくり」を実施(P.4～5参照)



今後の課題や方針

今後の活動では、河童の森周辺のフィールドにとどまることなく、東縁と西縁の高沼用水に挟まれた鴻沼川流域の低地全体を視野に入れ、行政とのパートナーシップでまちづくりに参画できる市民活動体でありたいと考えている。そのため、河童の森の管理運営に関するさいたま市との協定見直しや協働体制づくり、高沼用水整備に関する協議など、2012年度のマッチングファンド事業への取り組みも含めて、行政との連携を継続的に模索している。また、環境問題や市民活動に理解ある企業から、

協賛や支援を得ることにも積極的に取り組んでおり、市民・行政・企業の協働によるまちづくり(グランドワーク)の推進役でありたい。

これからはただ足元を見て活動するだけでなく、身近で貴重な自然環境である私たちのフィールドを守るために、主体的な活動と建設的な提案が必要になる。私たちは、日々の活動を通じて鴻沼川流域の低地のあるべき姿を考え、トータルな環境の保全・創造を目指している。【レポート：鈴木清史、三浦匡史】

Information

<p>11/10 吾野宿の歴史ロマンを訪ねるまちあるき</p> <p>【主催】埼玉県田園都市づくり課 【場所】飯能市 かつて秩父絹や西川材の取引などで賑わった「吾野宿」。古いまち並みなどを訪問。 www.pref.saitama.lg.jp/site/keikan-top/rekimichi-top.html</p>	<p>11/16・17 埼玉住まいまちづくり交流展2013 in 越谷</p> <p>【主催】日本建築学会関東支部埼玉支所 【場所】越谷市市民活動支援センター 県内のまちづくりNPO、専門家、大学、企業などが集結。パネル展やシンポジウムを開催。 news-sv.aij.or.jp/kcaij/s12/koryutenweb%20soudan/</p>	<p>11/16 子どもがつくるまち全国サミットinさいたま</p> <p>【企画運営】NPO法人子ども文化ステーション 【主催】さいたま市 【場所】大宮ソニックスティ 第4、第5展示場 全国の「子どものまち」の主催者が一堂に会し「子どもの社会参画」等の報告や議論。 www.npo.lsnet.ne.jp/kodomobunka/</p>
<p>11/19 我がまちの明るい未来はここから</p> <p>【主催】公益社団法人さいたま中央青年会議所 【場所】市民会館大宮 小ホール 少しだけまちに目を向けて、まちづくりのヒントを探し、まちの未来を考えるシンポジウム。 www.jc766.com/</p>	<p>11/21・22 市民創発のまちづくり 大宮の近未来を語りあう</p> <p>【主催】一般社団法人大宮駅東口協議会 アートフルゆめまつり実行委員会／都市づくりNPOさいたま 【場所】大宮区役所南館301会議室 他 延藤安弘さんをゲストに、大宮のこれからのまちづくりを語り合う会。 http://www.tsukutama.info/</p>	
<p>12/1 さいたま百景巡回ツアー こうぬま地域を巡る (荒天時は8日に延期)</p> <p>【主催】さいたま百景選定市民委員会 【場所】さいたま市桜区～中央区 さいたま市らしい風景を巡る巡回ツアー。井沢弥惣兵衛が開発したこうぬま地域を巡る。 www.ever-green.ne.jp/100kei/</p>	<p>12/10 市民協働「熊谷の力」ビジネスコンテスト2013 締切</p> <p>【主催】熊谷市／アルスコンピュータ専門学校 行政と教育機関、地元企業が「若者の力×熊谷の力」のビジネスプランコンテスト。 www2.arsnet.ac.jp/bizkuma/</p>	<p>12/13 アートフルゆめまつり2014 エントリー説明会(4/20まつり開催)</p> <p>【主催】アートフルゆめまつり実行委員会 【場所】大宮駅周辺 <ul style="list-style-type: none"> ●エントリー説明会 12/13(金) 18:30～ (大宮区役所1F多目的室) ●第1回実行委員会 1/25(土) 18:00～ (大宮区役所南館301会議室) ●第2回実行委員会 2/22(土) 18:00～ (大宮区役所南館301会議室) ●第3回実行委員会 3/29(土) 18:00～ (大宮区役所南館301会議室) 音楽やアートの力で大宮を元気にすべくスタートした市民発のイベント。説明会から。 www.aymo.jp</p>

募集 都市づくりNPOさいたまは正会員、賛助会員を募集しています。

- 正会員(年会費10,000円)：当会の趣旨に従って事業に主体的に参画していたりする個人の方で、法律上NPO法人の「社員」となります。年度一回の総会に出席して議決権を有します。
- 賛助会員(年会費5,000円/口・年度を1口以上)：当会の趣旨に賛同し、資金的な支援をいただける個人または法人の方。法律上NPO法人の「社員」ではありませんが、当会から情報提供を受けられます。

募集 都市づくりNPOさいたま情報紙「つくたま」の発行に協賛を募集しています。

協賛金10,000円でこの欄に協賛いただいた方の記事(広告やイベント告知等)を掲載いたします。

各お申し込み・お問い合わせは下記「都市づくりNPOさいたま」まで

つくたまとは？ つくたまは、都市づくりNPOさいたまの愛称です。つくたまは、市民のまちづくりへの参加を支援し、まちづくりの新たな価値の提案や、具体的なまちづくり活動を実践して、市民がまちづくりの中心にある社会を目指す特定非営利活動法人です。

つくたまの主な活動

調査及び研究事業

見沼田園景観創造プロジェクト／高沼用水の整備に関する検討／埼玉地域フンド研究会／つくたま塾の開催／さいたま百景選定事業／つくたま10周年記念事業／埼玉県景観整備機構活動(景観DBの活用を含む)／上尾市区域整理公園基本計画業務／上尾市区域整理公園WS企画実施

情報発信事業

webの運用／埼玉住まい・まちづくり交流展2012／Who's Who／総会企画ミニ・シンポジウム／つくたま情報紙の発行

普及、人材育成事業

さいたま市まちづくりセミナー／研修旅行

コーディネート、ファシリテート事業

氷川の杜まちづくり協議会／JR環境空間「河童の森づくり」に関する支援／さ

いたま・まちプラン市民会議2012～2013／見沼区民会議活動支援業務／南区民会議活動支援業務／桜区民会議活動支援業務／アートフルゆめまつり事務局支援／さいたまカーフリー2013／「(仮称) 河童ぶち公園」の市民参加と協働による水辺緑地計画策定支援／中央区民会議活動支援業務／大宮の街づくりを盛り上げるシンポジウム企画実施

市民活動支援事業

天沼住宅地区計画検討支援／浦和常盤8丁目地区計画検討支援／さいたま市民自治フォーラム

その他の事業

さいたま市福祉のまちづくり推進協議会／さいたま市地域包括支援センター運営協議会／さいたま市都市計画マスタープラン改定調査委員会／埼玉県景観審議会

- 編集・発行／2013年11月(通算第1号) ●デザイン・編集協力／藤巻 武士、松尾 英香



特定非営利活動法人
都市づくりNPOさいたま

Tel 336-0917 埼玉県さいたま市緑区芝原2-16-21 (地域生活デザイン内)
tel & fax : 048-876-1782 e-mail : tsukutama@ever-green.ne.jp
<http://www.tsukutama.info>